

内閣府青年国際交流事業報告書 2021

令和 3 年度
国際社会青年育成事業（オンライン）



内閣府

Cabinet Office, Government of Japan

序

内閣府では、日本と諸外国の青年の交流により、青年相互の友好と理解を促進するとともに、青年の国際的視野を広げ、次代を担うにふさわしい国際性を備えた健全な青年を育成することを目的として各種の青年国際交流事業を実施してまいりました。

「国際社会青年育成事業」は、日本と世界の青年の交流を通じて、相互理解と友好促進を図るとともに、国際協調の精神を養い、次代を担う青年を育成するべく60年以上にわたり実施してきた歴史ある事業です。

本事業は元々、日本青年を海外に派遣し、外国青年を日本に招へいするものですが、今年度はコロナ禍を巡る状況がいまだに予断を許さないことから、昨年度に引き続き、オンラインで開催することとしました。

交流プログラムでは、これからの新しい時代にリーダーシップを発揮できる青年の育成を図ることを目的に、中南米地域からは災害対策をテーマにメキシコ合衆国・ドミニカ共和国の参加青年と、欧州地域からはITをテーマにドイツ連邦共和国・エストニア共和国の参加青年と日本青年とで、それぞれディスカッションを行いました。今年度は新たな試みとして、参加青年の募集に際し、ディスカッションテーマに関連する分野に将来従事を希望する青年と、実際に従事している青年を対象に募集を行いました。様々な立場から一つのテーマについて議論することで、より多角的な視野が形成され、課題に対する参加青年の理解が深められたのではと思います。

さらに、事業報告会では、今回のオンライン交流で得られた成果を報告するとともに、これまでの事業参加青年による経験や学びといった自身の成長を紹介する機会も設け、より多くの方々に本事業の魅力をお伝えするための広報を行いました。

本事業を通じて、参加者の皆様が交流を深めるとともに、様々なテーマについて大いに議論いただいたことで、参加青年が今後の活動につながる学びを得て、今後ますます活躍されるとともに、広く青少年の方々が、本事業を含む国際交流活動への関心を高めていただくことを願っています。

本報告書は、今回のオンライン交流で行ったディスカッション等の様々な活動について記録したものです。この報告書を通じ、事業の意義を御理解いただくとともに、今後一層の御支援をいただければ幸いです。

最後に、本事業の実施にあたり、御協力いただいた関係各位に、心から御礼申し上げます。

令和4年3月

内閣府青年国際交流担当室長

黒瀬 敏文

事業概要

<目的>

国際社会青年育成事業は、昭和34年及び平成5年の当時の皇太子殿下御成婚記念事業を、平成31/令和元年のお代替わりを契機に発展させた事業である（昭和34年に「青年海外派遣事業」として開始し、昭和37年開始の外国青年招へい事業と合わせて平成6年から「国際青年育成交流事業」として実施）。日本と諸外国の青年の議論を通じて理解を深めるとともに、青年相互の友好と理解を促進し、国内各地域の青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神の醸成と国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、青年による青少年健全育成活動等への寄与を目的とする。

令和3年度は、コロナ禍を巡る状況がいまだに予断を許さないことから、昨年度に引き続き、オンラインで開催することとした。

このため、これまで行ってきた国際社会青年育成事業の特色を生かしながら、今年度はオンライン形式により、4か国の外国青年と日本青年が同一の社会課題をテーマにディスカッション及びマルチ・ケース・スタディを行うことで、現代の複雑化したグローバル社会に沿った国際的視野を持つ青年を育成することを目的とする。

<実施概要>

本事業は中南米・欧州地域別に、オンラインにて実施した。

(1) テーマ

- ◆ 中南米地域：「災害対策」

災害をきっかけに持続可能な社会を創る
“ビルド・バック・ベター”な取り組みとは？

- ◆ 欧州地域：「IT」

進み続ける IT 化が世の中をどう変えるか？
それに対する我々のアクションは？

(2) サブテーマ

- ◆ 中南米地域

- ① 高度に危険な汚染リスク（例：原発事故や

COVID-19のような感染症）に対して、行政はいかに備えるべきか

- ② どのような災害対策が、企業セクターに付加価値をもたらすか

- ③ コミュニティ主体の災害対策立案には、誰がどうかかわるべきか

- ④ NGO が適切かつ責任を伴った災害人道支援を計画・実施する上で、何が重要か

◆ 欧州地域：

- ① IT で解決できる教育の問題／IT で教育を改善する方法や事例

- ② IT 化によって社会に起きている負の側面と対策

- ③ IT 化によって今後大きく影響を受ける業界とそれに対する施策の提案

- ④ 最新の先端技術で解決可能な（解決が見込める）社会課題とその方法

(3) 日本参加青年の参加資格（主なもの）

- ◆ 令和3年4月1日現在、概ね 18 歳以上 30 歳以下の者であること。ただし、テーマ（災害対策または IT）に関係する分野に従事している者については 40 歳以下も可とする。
- ◆ 交流対象国に対して関心と理解があること。
- ◆ 本事業における活動（ディスカッション等）を円滑に行うことができる英語力を有すること。ただし、テーマ（災害対策または IT）に関係する分野に従事している者については英語力を問わない。
- ◆ 事前研修、オンライン交流、事後研修及び事業報告会の全日程に参加できること。
- ◆ 本事業終了後もその経験をいかして社会活動を活発に行うことが期待できること。

(4) 地域・交流国・参加青年人数

- ◆ 日本参加青年
中南米地域 15名
欧州地域 15名（辞退者1名）
- ◆ 外国参加青年
メキシコ合衆国参加青年 8名

ドミニカ共和国参加青年 8名
ドイツ連邦共和国参加青年 7名
エストニア共和国参加青年 7名

(5) 日程

◆ 事前研修

中南米・欧州地域合同で実施：

➤ 1日目：令和3年12月11日（土）

➤ 2日目：令和3年12月18日（土）

※両日とも 14:00～18:00 で実施

◆ 外国参加青年とのオンライン・ディスカッション交流

① 中南米地域

➤ 1日目：令和4年1月15日（土）

➤ 2日目：令和4年1月16日（日）

➤ 3日目：令和4年1月29日（土）

※全日程において、日本時間9:00～12:00、

メキシコ時間18:00～21:00、

ドミニカ共和国時間20:00～23:00 で実施

② 欧州地域

➤ 1日目：令和4年1月22日（土）

➤ 2日目：令和4年1月23日（日）

➤ 3日目：令和4年2月5日（土）

※全日程において、日本時間 17:00～20:00、

ドイツ時間9:00～12:00、

エストニア時間10:00～13:00 で実施

◆ 事後研修

中南米・欧州地域合同で実施：

令和4年2月13日（日）14:00～18:00

◆ 事業報告会

令和4年3月5日（土）14:00～17:10

※プログラム実施

内閣府との契約により、一般財団法人青少年国際交流
推進センターが実施に当たった。

第1章 国際社会青年育成事業について

事業日程

<事前研修1日目>

令和3年12月11日(土)

時間			時間枠	中南米地域	欧州地域
				内容	内容
14:00	～	14:15	0:15	オープニング・オリエンテーション 内閣府挨拶 事業趣旨説明	
14:15	～	15:15	1:00	ディスカッション能力向上講座 質疑応答	
15:15	～	15:25	0:10	休憩	
15:25	～	16:25	1:00	メキシコ合衆国事情に関する講義 (大使館職員) 質疑応答	ディスカッションテーマ「IT」に関する講座 質疑応答
16:25	～	16:35	0:10	休憩	
16:35	～	17:55	1:20	ワーク① アイスブレイクなど	ワーク① アイスブレイクなど
17:55	～	18:00	0:05	クロージング	

<事前研修2日目>

令和3年12月18日(土)

時間			時間枠	中南米地域	欧州地域
				内容	内容
14:00	～	14:05	0:05	オープニング 内閣府挨拶	
14:05	～	15:05	1:00	ディスカッションテーマ「災害対策」に関する講座 質疑応答	エストニア共和国事情に関する講義 (大使館職員) 質疑応答
15:05	～	15:15	0:10	休憩	
15:15	～	16:15	1:00	ドミニカ共和国事情に関する講義 (大使館職員) 質疑応答	ドイツ連邦共和国事情に関する講義 (大使館職員) 質疑応答
16:15	～	16:25	0:10	休憩	
16:25	～	17:45	1:20	ワーク②	ワーク②
17:45	～	17:47	0:02	休憩 (Zoom 移動)	
17:47	～	17:57	0:10	事後活動 (IYEO) 説明	
17:57	～	18:00	0:03	クロージング	

<中南米地域オンライン交流1日目>

令和4年1月15日(土)				
時間			時間枠	内容
9:00	～	9:15	0:15	オープニング・オリエンテーション 内閣府特命担当大臣 若宮健嗣 挨拶(ビデオメッセージ) 事業紹介、スタッフ紹介
9:15	～	9:45	0:30	ファシリテーターによる全体説明
9:45	～	11:55	2:10	グループ別ディスカッション①
11:55	～	12:00	0:05	クロージング

<中南米地域オンライン交流2日目>

令和4年1月16日(日)				
時間			時間枠	内容
9:00	～	9:05	0:05	オープニング
9:05	～	9:20	0:15	ファシリテーターによる全体説明
9:20	～	11:50	2:30	グループ別ディスカッション②
11:50	～	12:00	0:10	クロージング

<中南米地域オンライン交流3日目>

令和4年1月29日(土)				
時間			時間枠	内容
9:00	～	9:05	0:05	オープニング
9:05	～	10:05	1:00	グループ別ディスカッション③
10:05	～	10:10	0:05	休憩
10:10	～	11:55	1:45	成果発表・質疑応答 講評
11:55	～	12:00	0:05	クロージング

<欧州地域オンライン交流1日目>

令和4年1月22日(土)				
時間			時間枠	内容
17:00	～	17:15	0:15	オープニング・オリエンテーション 内閣府特命担当大臣 若宮健嗣 挨拶(ビデオメッセージ) 事業紹介、スタッフ紹介
17:15	～	17:25	0:10	ファシリテーターによる全体説明
17:25	～	19:55	2:30	グループ別ディスカッション①
19:55	～	20:00	0:05	クロージング

<欧州地域オンライン交流2日目>

令和4年1月23日(日)				
時間			時間枠	内容
17:00	～	17:05	0:05	オープニング ファシリテーターによる全体説明
17:05	～	19:50	2:45	グループ別ディスカッション②
19:50	～	20:00	0:10	クロージング

<欧州地域オンライン交流3日目>

令和4年2月5日(土)				
時間			時間枠	内容
17:00	～	17:05	0:05	オープニング ファシリテーターによる全体説明
17:05	～	18:30	1:25	グループ別ディスカッション③
18:30	～	18:40	0:10	休憩
18:40	～	19:50	1:10	成果発表・質疑応答 総評
19:50	～	20:00	0:10	クロージング

<事後研修>

令和4年2月13日(日)						
時間			時間枠	中南米地域	欧州地域	
				内容	内容	
14:00	～	14:10	0:10	オープニング スケジュール及び振り返りの説明		
14:10	～	15:10	1:00	ふりかえり・共有①(発表準備)		ふりかえり・共有①(発表準備)
15:10	～	15:50	0:40	ふりかえり・共有② 発表(20分)×2地域		
15:50	～	16:30	0:40	ふりかえり・共有③ ブレイクアウトルーム(中南米1名+欧州1名)×2回 「オンライン交流での気づき・学び」+発表の感想・質疑応答		
16:30	～	16:40	0:10	休憩		
16:40	～	17:10	0:30	事後活動について		
17:10	～	17:30	0:20	事業報告会の説明		
17:30	～	17:55	0:25	事業報告会準備		事業報告会準備
17:55	～	18:00	0:05	クロージング		

<事業報告会>

令和4年3月5日(土)						
時間				時間枠	内容	
第一部	14:00	～	14:05	0:05	第一部オープニング 開会挨拶	
	14:05	～	14:10	0:05	令和3年度国際社会青年育成事業 紹介	
	14:10	～	14:30	0:20	中南米地域日本参加青年 成果発表	
	14:30	～	14:50	0:20	欧州地域日本参加青年 成果発表	
	14:50	～	15:20	0:30	報告会参加者との交流	
	15:20	～	15:30	0:10	休憩	
第二部	15:30	～	15:35	0:05	第二部オープニング	
	15:35	～	16:05	0:30	ゲストスピーチ「国際交流を通じたグローバル人材育成」	
	16:05	～	16:45	0:40	パネルディスカッション	
	16:45	～	17:05	0:20	内閣府青年国際交流事業 概要説明	
	17:05	～	17:10	0:05	クロージング	

事業評価アンケート

I 趣旨

国際社会青年育成事業は、昭和 34 年及び平成5年の当時の皇太子殿下御成婚記念事業を、平成 31/令和元年のお代替わりを契機に発展させた事業である。

本事業の目的は「日本と諸外国の青年の議論を通じて理解を深めるとともに、青年相互の友好と理解を促進し、国内各地域の青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神のかん養と国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、青年による青少年健全育成活動等へ寄与すること」であり、事業参加によりコミュニケーション能力や多文化に対応する適応能力等の向上を図ることをねらいとしている。

本年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインにより日本参加青年と外国参加青年との交流プログラムを実施することとし、グループ別ディスカッションや成果発表等を行った。

本年度事業の成果を測るため、日本参加青年および外国参加青年全員を対象として事業終了時にアンケート評価を行った。評価数値基準は、5段階評価（評価の高い方から5～1）を基本とした。

また、日本参加青年に対しては、事前研修及び事後研修時に、能力向上等に関する自己評価の変化についての比較調査も行った。評価数値基準は、他の調査との比較の観点から6段階評価（評価の高い方から6～1）を基本とした。

II 評価結果

1.事業目的の達成度

①事業全体の満足度

「事業全体をどのように総合評価しますか」との問いに対して、日本参加青年の 93%、外国参加青年の 100%が5段階評価の4（良かった）以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは「一つのテーマに関して国籍や文化背景が異なる参加者の多様な意見を聴く貴重な経験をすることができた」「日本のメディアやネットでは知ることのできない生きた情報を得ることができた」「普段関わることがない人の話を聞き、交流することができ、自分自身のモチベーションアップにつながった」とのコメント

があり、自分とは異なる意見や文化背景を持つ他の参加者との貴重な出会いを享受した様子が窺える。外国参加青年からは「Very organized, clear instructions, no technical issues.（非常にしっかりとまとまっていて、明確な指示があり、技術的な問題もない）」や「Online meetings are prone to chaos and can be messy. This was not the case with INDEX. I was positively surprised by how well everything was organized!（オンラインミーティングは無秩序で混乱をまねき、散漫になる傾向があるが、本事業には当てはまらなかった。すべてが上手く整理されていることに、良い意味で驚いた!）」等のコメントが述べられ、事業全体の満足度の高さにつながったことが分かる。

②ディスカッション交流の満足度

「外国参加青年とのディスカッション交流をどのように評価しますか」との問いに対して、日本参加青年の 90%、外国参加青年の 100%が5段階評価の4（良かった）以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは「モデレータの進行が素晴らしく、みな等しく発言し活発な議論ができた」「通訳の方が助けてくださったおかげで、スムーズに議論が進んだ」「グループの人数が 10 人弱で少人数であったために、メンバー全員が活発的に意見を出し合うことができた」「限られた時間の中でも、議論を深め発表当日はチームワークを発揮することができた」とのコメントがあった。外国参加青年からは「Everything went very smooth! Our members were very motivated and responsible. There were absolutely zero issues, not even different time zones stood in our way.（すべてがとてもスムーズに進んだ！私たちのメンバーは非常に意欲的で責任感があった。時差があっても、まったく問題はなかった）」「I was really surprised about the huge interaction and discussions we had.（私たちの偉大な交流と議論に、本当に驚いた）」等のコメントがあり、短いディスカッション時間においても、ファシリテーター・モデレーター・通訳等のサポートにより、円滑なディスカッションの進行や活発な意見交換につながったようだ。一

方、「個人の反省としては、積極的に発言できなかったため、『良かった』と評価した」「公式の交流時間では基本的には良い議論が進んだが、非公式の時間に関しては外国参加青年からのアウトプットは0だったことがとても残念だった」というコメントもあり、参加者により多少のコミットメントの差異があったことが推察される。

③事前研修及び事後研修の満足度

「事前研修及び事後研修をどのように評価しますか」との問いに対して、日本参加青年の 83%が5段階評価の4（良かった）以上を付ける評価であった。

日本参加青年からは、「テーマに関する専門的な知識はあまりなかったのでファシリテーターの方々による講演はとても有意義だった」「INPUT と OUTPUT がしっかり研修でできたので良かった。ただ、事後研修の各地域の発表については、準備期間が短かったため、オンライン交流の難しさを少し感じた」「大使館の方から話を聞いたのは、とても貴重な経験であったし、あまり知らなかったドイツとエストニアのことを政策面から知ることができた良い体験だった。また、事後研修も、時期が離れすぎているという意見もあったが、私はディスカッション後もテーマ(IT)について考える時間が多くあったので良かったと思う。また、中南米地域の方とも交流でき、欧州のメンバーとは違った角度から質問してもらったりしたので、新たな好奇心の萌芽につながった」「事後研修に向けての準備期間が地域によって差があったため、発表の内容にも当然大きな差異が生じていたこと、時間がないがゆえに簡素な内容にせざるを得なかったことは少し残念だと思った」等のコメントがあった。

事前研修においてファシリテーターからテーマに関する講義を受け、大使館職員から交流国の情報・状況を学び、ディスカッション交流への準備ができたこと、事後研修においてディスカッション成果をふりかえり、テーマに対する更なる理解を深めたことは有意義だと評価された。一方、研修時間の長さや開催時期に対しては、再考の余地があるといえる。

2.日本参加青年の成長

①個人の能力の向上

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での能力の成長の変化について6段階（6=十分備えている、5=備えている、4=ある程度備えている、3=あまり備えていない、2=備えていない、1=全く備えていない）による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

・「コミュニケーション能力」:

平均値が 4.0 から 4.3 となり、0.3 ポイントの増。

・「多文化に対応する適応能力」:

4.4 から 4.6 となり、0.2 ポイントの増。

・「チャレンジ精神」:

4.8 から 4.7 となり、0.1 ポイントの減。

・「ディスカッションを通じた問題解決能力」:

4.1 から 4.4 となり、0.3 ポイントの増。

・「企画力」:

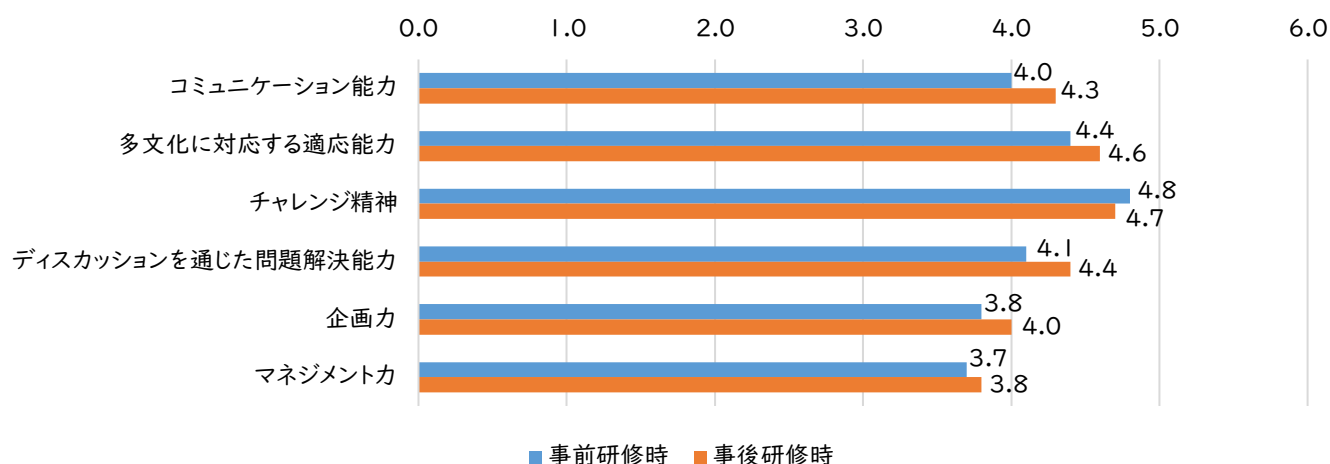
3.8 から 4.0 となり、0.2 ポイントの増。

・「マネジメント力」:

3.7 から 3.8 となり、0.1 ポイントの増。

（ポイント数については、小数第二位を四捨五入）

事業実施前後の能力向上に関する自己評価の増減（ポイント）



伸び幅は大きい順に、「コミュニケーション能力」「ディスカッションを通じた問題解決能力」「多文化に対応する適応能力」「企画力」「マネジメント力」であった。

日本参加青年からは「ディスカッションを通じた問題解決能力」の向上に関して、自由記述欄に「問題解決能力に関して、議論の方向性を適宜修正し、ゴールに持っていく経験をダイレクトに得て、かなり学ぶことができた」「ディスカッションの時に出了た性別、病氣、性的マイノリティ、言語などの災害弱者になる特徴に対して、自分たちが行える対策を考えることができた」「外国参加青年と文化の違いや時差がありながらも、一つのプレゼンテーション資料を作成し、共同で発表した経験は大変感慨深い思い出になった」等のコメントがあった。日本参加青年は各テーマやサブテーマを自発的に調査・研究し、そのうえで外国参加青年とのディスカッションに臨み、議論の広がり柔軟に対応しつつ、成果発表へ向けてグループ内で建設的な合意形成を達成したことから、高く評価したものと考察できる。

また、「コミュニケーション能力」「多文化に対応する適応能力」「企画力」に関しては、「時間外で各国の青年同士で文化紹介ができたので、これを通じてお互いの距離も文化の知識も進化したと思う」「オンライン交流本番日以外にも、一緒にゲームをしたり、文化紹介をしたりすることができた」「目的に対し、何が最も受け手に印象を与えるか、また、実行側が楽しんで取り組めるかも包括的に考えて取り組むことができた」とのコメントがあり、文化交流会や懇親会などのディスカッション以外の時間においても、日本参加青年が自発的に企画・運営したり、各自 SNS 等で連絡を取り合ったりしながら、交流・異文化理解を深めるための努力を重ねた結果と推察できる。

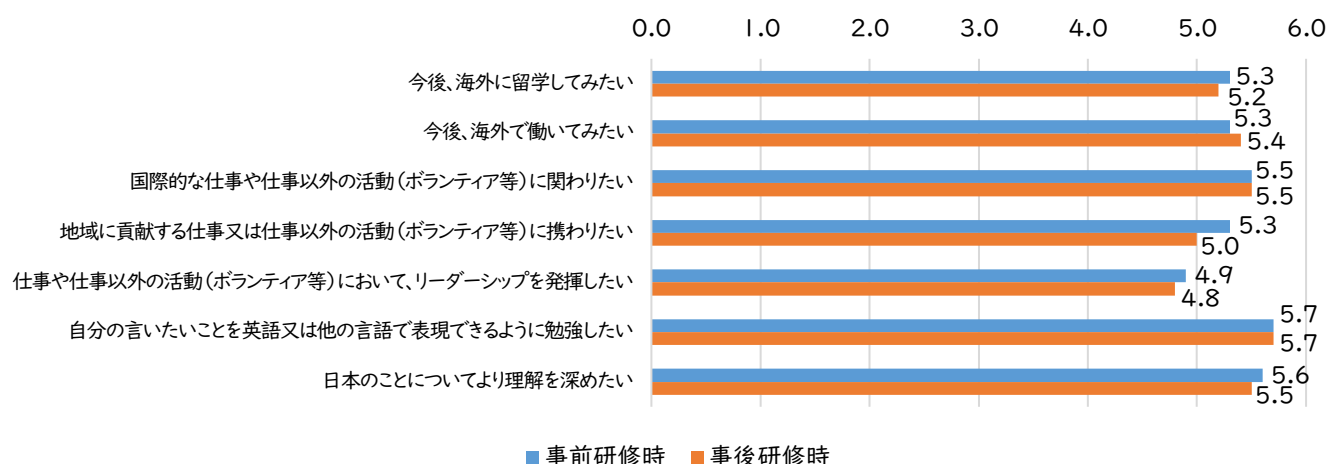
「マネジメント力」も上昇しており、6つの能力のうち5つの能力の成長が見られ、本事業への参加が個人の能力の向上に影響を与えたことが分かる。

②個人の意識の変化

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での意識の変化について6段階（6＝非常に思う、5＝そう思う、4＝ややそう思う、3＝あまりそう思わない、2＝そう思わない、1＝全くそう思わない）による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

- ・「今後、海外に留学してみたい。」：
平均値が 5.3 から 5.2 となり、0.1 ポイントの減。
- ・「今後、海外で働いてみたい。」：
5.3 から 5.4 となり、0.1 ポイントの増。
- ・「国際的な仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）に関わりたい。」：
5.5 から 5.5 となり、増減なし。
- ・「地域に貢献する仕事又は仕事以外の活動（ボランティア等）に携わりたい。」：
5.3 から 5.0 となり、0.3 ポイントの減。
- ・「仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）において、リーダーシップを発揮したい。」：
4.9 から 4.8 となり、0.1 ポイントの減。
- ・「自分の言いたいことを英語又は他の言語で表現できるように勉強したい。」：
5.7 から 5.7 となり、増減なし。
- ・「日本のことについてより理解を深めたい。」：
5.6 から 5.5 となり、0.1 ポイントの減。

事業実施前後の意識変化に関する自己評価の増減（ポイント）



本事業に参加する前からこれらの意識が高い日本参加青年が多く、事業実施前後で大きな変化は見られなかったが、「今後、海外で働いてみたい」については事業実施後の評価が高くなった。日本参加青年からは「本事業で NGO について外国参加青年とディスカッションできたことは、大変有意義な経験となった。私は会社の『海外研修制度（海外の NPO 法人に派遣）』にチャレンジしたい」「お互いの強みを活かしつつ、できることを考えているプロセスが、活動を通してつながっていくという印象を得た。純粋に、海外の人と仕事をするって良いなと感じた」「就職した後も、ビジネスで世界を渡る予定であるので、国際的な視野を忘れないように活かしていきたい」等のコメントがあり、本事業に参加したことをきっかけに、海外で働くことへの意識が高まったものと考察できる。

「地域に貢献する仕事又は仕事以外の活動（ボランティア等）に携わりたい」への問いでは、0.3 ポイントの減という結果であったが、日本参加青年からは「自分の地域の住んでいる方の持っている特性なども互いに知り、支え合って、災害時だけではない強靱なコミュニティを作っていきたい」「『人間の安全保障』という人と人の結びつきにおいて必要な役割を担いたい。資金や物の支援だけではなく、人の繋がりコミュニティの形成において『方法』や『工夫』を現地の人と模索しながら解決できるような仕事をしたい」「地域の住民同士をつなげられるようなサークルに参加・企画したい」「手話の勉強などを通して聴覚に障害を持った方の支援を行いたい」「自身の研究を進め、その研究成果を日常生活に落とし込んでいくことで、社会に貢献を図りたい」とのコメントがあり、「地域貢献やボランティア活動」への意思を示すものが多かった。

同様に「今後、海外に留学してみたい」「仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）において、リーダーシップを発揮したい」「日本のことについてより理解を深めたい」においても、ポイントの減少が見られるが、事業参加によって意欲が下がったとのコメントは見受けられなかった。一方で、数値としてはポイント増にはつながっておらず、より効果的なプログラム作りについては、検討の余地があるものと思料される。

Ⅲ 総括評価

最後に、アンケート内の特筆すべき結果や参加青年の

コメントを抜粋し、今回の総括評価としてまとめる。

「この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか」との問いに対して、日本参加青年 97%、外国参加青年 97%が5段階評価の4（役立つと思う）以上を付け、高い評価であった。

「どのように役立つと考えるか」という問いの7つの選択肢のうち、「⑤自分の国際的視野が広がったことにより、理解力の向上につながる」「⑥国際問題や異文化に対する理解が深まった」が日本参加青年・外国参加青年ともに最も多く、上位1・2位であった。

参加青年からは、「今までの自分の考え方がいかに狭いものだったかを知ることができた。新たな考え方を知ることができ、身に着けることができた」「国際的な視野（他国の状況や施策に関心を持つこと）を得た」「地球のほとんど裏側の国の人々との一体感、新しい価値観を得た」「overall good, I heard a lot of unexpected viewpoints.（全体的に良かった。予想外の視点をたくさん聞けた）」等のコメントが多数あった。

このことから、「青年の国際的視野を広げる」という本事業の目的を十分に果たすことができたと評価できよう。

本事業は今年度から、概ね 18 歳以上 30 歳以下の青年に加えて、テーマ（災害対策または IT）に関係する分野に従事している 40 歳以下の者も参加可能になった。国際的視野だけでなく、自文化においても年代や経験の差異がある参加者や異なる意見を受け入れることにより、さらに広く多角的な視野をもつことができる。グローバルにもローカルにも目を向けて問題を解決できる人材育成の場を提供する本事業は有意義といえる。

日本参加青年からの「普段生活では自分と似た人や似た環境で育った人と接することが多くなってしまう。しかし、本事業では、様々な年齢や経験を持った人と話せたため、とても刺激的だった。広い視野を持てたと思うし、将来にも役立つと思う」「同じテーマについて、国の枠を超え、様々な世代、文化を背景に持つ参加青年たちの考え方を知ることができ、大変勉強になった」「世代や国を超えて一つのプレゼンを行わなければいけないという課題に対し、コミュニケーション力等が向上したとを感じる」というコメントから、幅広い年齢層の青年と交流・討議し、一つの結果を導き出すという実践的な学びを体験することで、参加青年が多角的な視点を獲得、異なる価値観を

持つ人々と協調・協力できたことが伺える。青年の成長とともに本事業の成果を示すものと言えよう。

その他、日本参加青年から「今回のテーマは私の業務の一つであり、参加青年からの生の声は、自身の仕事等にいかせると思った。また、国内だけでなく海外でも活躍したいという自身の思いを後押ししてくれた気がした」「今回学んだことを社内プレゼンし、積極的に自己研磨できる環境を促進する。英語をもっと使うグローバルな環境に身を置きたい(海外部署へ公募)」等のコメントがあり、外国参加青年からも、「Truly, participating in this valuable exchange will serve as motivation in my future personal and professional projects. Especially because I learned a lot from the life experiences of wonderful young people from Japan and Mexico that inspire me to continue working for a more sustainable and just society. (この価値ある国際交流に参加したことは、個人的な活動においても、専門的な取組みにおいても、未来への動機付けとなるだろう。特に、日本とメキシコの素晴らしい若者たちの人生経験から多くのことを学んだ。それによって私自身、より持続可能で公正な社会のために継続して取り組んでいきたいと強く感じた)」等のコメントがあった。

本事業での学びを自身の職場や業務に還元しようとする意思が見えるとともに、青年が将来のキャリアを考えうえて本事業が一助になったと言えよう。

以上の評価結果から、参加青年自らがディスカッション交流や文化交流に積極的かつ主体的に参加・運営することを通して、問題解決能力、コミュニケーション能力、多文化に対応する適応能力、企画力、マネジメント力、国際的視野の拡大に対する自己の成長を認め、本事業で得た実践的な経験を自身の仕事・学校・地域に還元する意思を示していることから、本事業の目的を十分に果たし、成果を収めたものと評価できよう。

